

おひざのうえで

(副園長の子育ておうえん通信 年末号)

「存在感」

せんりひじり幼稚園 安達 かえで



Senrihijiri Kindergarten

2学期も終わり、様々な場面で子どもたちの育ちを感じることができましたね。仲間と共に遊んだり役割を果たしたりすることで、自分の存在を感じる場面も多かったと思います。自分のしたことをみんなが喜んでくれたり、ありがとうって言われたりすることが、自分の喜びになります。また、自分が声をかけることで友達が元気になったり、小さい組さんが泣き止んだり、みんなで掃除することでお部屋の床がきれいになったりすることも嬉しかったりします。人は誰かに必要とされることで自分の存在感（自己有能感）を感じる事が多いです。

年末はお正月を迎える準備で、家の中は忙しいですよ。子どもたちのことをつい「邪魔」と思って、主人に「外で遊んできて」ということもありました。窓を拭いたりテラスの掃き掃除やおもちゃの整理、もう少し役に立つようになると、買い物に付いてきてもらったり、鯛のうろこ取りや数の子の薄皮むき、きんとんの裏ごし等の手伝いをしてもらったりしてきましたが、振り返ると、もつといろいろとさせてあげたらよかったですと思います。少々きれいにならなくてもいいから、様々な所の掃除やお正月準備の経験をさせてあげて、自分が役に立ったから気持ちよくお正月を迎えることが出来たと思えるようにしたいですね。

お正月を迎えると「日本の文化」の大切さを感じます。

大晦日にキッチンから香る煮物のにおい、湯気、慌ただしい空気、いつもよりは片づいた玄関、お飾り、お正月用の和食器。新しい年を迎える独特の雰囲気というのは 子どもの記憶のどこかに、煮物のにおいと共に残っていくでしょう。それぞれのご家庭のお正月の過ごし方、おせち料理の味、お雑煮の味等には家庭の文化が根付いていると思います。こどもの心にきつと染み込んでいくでしょう。

そして一つの行事を迎える家族の一体感は、家族の絆と子どもたちが生きていくための心の強さを生むと思います。日本の文化の中にはそういう一体感を自然の副産物として生み出してくれる行事がたくさんあるのではないのでしょうか。自分も役に立っているんだという存在感（自己有能感）が自己肯定感を育てていくと思います。

お子様と一緒に新年を迎える準備ができますように。
そして新年も健やかな一年でありますように・・・。
来年もどうぞよろしく申し上げます。

